

令和4年度行政事業レビューシート 文部科学省

事業名	日本武道館補助			担当部局庁	スポーツ庁	作成責任者	
事業開始年度	昭和40年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	政策課	企画調整室長 日比謙一郎	
会計区分	一般会計						
根拠法令(具体的な条項も記載)	スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第33条第3項			関係する計画、通知等	-		
主要政策・施策	-			主要経費	文教及び科学振興		
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	スポーツ基本法(平成23年法律第78号)の規定に基づき、我が国伝統の武道を国民、特に青少年の間に普及奨励することを目的とする公益財団法人日本武道館に対し、古武道保存事業、青少年武道錬成大会開催事業、武道指導者講習会及び武道国際交流事業に必要な経費の一部を補助し、もって、日本武道館主催・共催の各種武道行事の普及・啓発を図る。						
事業概要(5行程度以内。別添可)	公益財団法人日本武道館の実施する、以下の事業に必要な経費の一部を補助金として交付する。 (1)古武道保存事業:全国各地に伝承されている古武道各流各派による継承保存のための演武大会を開催する。 (2)青少年武道錬成大会開催事業:小・中・高校生を対象に、柔道・剣道等武道9種目の錬成大会を開催する。 (3)武道指導者講習会:学校や社会教育の場等で武道実技指導者、武道指導者を対象に、実技指導法などの研修会を実施する。 (4)武道国際交流事業:在日外国人留学生、在日大使館職員等を対象とした国際武道文化セミナーの開催、海外に武道代表団を派遣しての交流事業を実施する。 補助率:定額						
実施方法	補助						
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求
		補正予算	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-
		予備費等	-	-	-	-	-
		計	62	62	62	62	62
	執行額	62	3	36			
	執行率(%)	100%	5%	58%			
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	100%	5%	58%				
令和4・5年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由			
	民間スポーツ振興費等補助金	62	62	※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。			
	計	62	62				
活動内容(アクティビティ)	(1)古武道保存事業:全国各地に伝承されている古武道各流各派による継承保存のための演武大会を開催する。						

活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	古武道35流派による大会を開催し、古武道の保存と伝承、修得者増並びに指導者育成を推進する。	古武道保存伝承のための大会開催数。		活動実績	流派	35	0	25	35
		当初見込み	流派	35	35	35	35	35	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	(1)古武道保存事業補助執行額/参加流派数		単位当たりコスト	円	15,857	0	346,854	555,000	
		計算式	円/流派数	555,000/35	0	8,671,361/25	555,000/35		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 年度	
	古武道35流派による大会を開催し、古武道の保存と伝承、修得者増並びに指導者育成を推進した。	35流派の実施予定のところ、25流派の実施となった。	成果実績	人	33,946	0	2,855	-	-
			目標値	人	33,961	0	3,000	-	40,000
			達成度	%	99.9	0	95.1	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	日本武道館補助金 実績報告書 ※なお、令和2年度は、会場となる日本武道館が東京2020大会開催で使用できないため未開催となり、ゼロ人である。 ※また令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、人数制限および無観客で行ったため、通常より規模縮小の人数となっている。								
活動内容 (アクティビティ)	(2)青少年武道錬成大会開催事業：小・中・高校生を対象に、柔道・剣道等武道9種目の錬成大会を開催する。								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	(2)青少年武道錬成大会をできるだけ多く開催する。	(2)青少年武道錬成大会開催数	活動実績	回	67	3	21	-	-
		当初見込み	回	67	52	55	46	46	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	(2)青少年武道錬成大会補助執行額/青少年武道錬成大会開催数		単位当たりコスト	円	147,612	411,980	283,975	215,000	
		計算式	円/回	9,890,000/67	1,235,941/3	5,963,479/21	9,890,000/46		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4 年度	目標最終年度 5 年度	
	(2)青少年武道錬成大会を通じて、各種武道の普及や武道人口増加を目指す。	青少年武道錬成大会開催数は21回(21地点)となった。	成果実績	回	67	3	21	-	-
			目標値	回	67	52	55	52	52
			達成度	%	100	5.7	38.1	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	日本武道館補助金 実績報告書 ※なお、令和2年度は、会場となる日本武道館が東京2020大会開催で使用できないため未開催となり、ゼロ人である。 ※また令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、人数制限および無観客で行ったため、通常より規模縮小の人数となっている。								

活動内容 (アクティビティ)		(3) 武道指導者講習会: 学校や社会教育の場等で武道実技指導者、武道指導者をを目指す者を対象に、実技指導法などの研修会を実施する。								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
		柔道、剣道、弓道など9種目10事業について計88回の指導者講習会を開催する。	(3) 武道指導者講習会開催数	活動実績	回	94	4	33	-	-
単位当たりコスト		算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
		(3) 武道指導者講習会補助執行額 / 武道指導者講習会開催数			単位当たりコスト	円	453,585	315,716	570,012	526,383
成果目標及び成果実績 (アウトカム)		定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 5年度
		柔道、剣道、弓道など指導者講習会を開催し、武道の普及や武道人口増加を目指す。	武道指導者講習会開催数は33回となった。	成果実績	回	94	4	33	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)		日本武道館補助金 実績報告書 ※なお、令和2年度は、会場となる日本武道館が東京2020大会開催で使用できないため未開催となり、ゼロ人である。 ※また令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、人数制限および無観客で行ったため、通常より規模縮小の人数となっている。								
		活動内容 (アクティビティ)		(4) 武道国際交流事業: 在日外国人留学生、在日大使館職員等を対象とした国際武道文化セミナーの開催、海外に武道代表団を派遣しての交流事業を実施する。						
活動目標及び活動実績 (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
		日本に留学中、滞在勤務中の外国人への武道国際交流事業の開催。	(4) 武道国際交流事業開催数	活動実績	回	2	0	1	-	-
単位当たりコスト		算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
		(4) 武道国際交流事業補助執行額 / 武道国際交流事業開催数			単位当たりコスト	円	4,426,500	0	2,299,313	8,853,000
成果目標及び成果実績 (アウトカム)		定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 5年度
		日本に留学中、滞在勤務中の外国人への武道国際交流事業により、武道の普及、理解造詣を深めることを目指す。	武道国際交流事業開催数は1回となった。	成果実績	回	2	0	1	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)		日本武道館補助金 実績報告書 ※なお、令和2年度は、会場となる日本武道館が東京2020大会開催で使用できないため未開催となり、ゼロ人である。 ※また令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、人数制限および無観客で行ったため、通常より規模縮小の人数となっている。								
		政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	11 スポーツの振興		政策評価書 URL	https://www.mext.go.jp/content/20211220-mxt_kanseisk02-000019646_11-1.pdf			
施策	11-1 スポーツを「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と、そのための人材育成・場の充実		該当箇所	p.1~p.6						
新経済・財政再生計画改革工程表 2021	取組事項	分野:	-							
		(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:								
		該当箇所								

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	中学校での武道必修化や武道ツーリズム等により、国内外を問わず武道の需要は拡大しており、本事業の目的とする我が国の武道の普及・振興等は、広く国民や社会のニーズを反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は、我が国伝統の武道の普及奨励を図ることを目的としており、スポーツ基本法に定めるスポーツの振興に寄与することから国が支援を行う必要のある事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	我が国伝統の武道を国民、特に青少年の間に普及奨励するという事業目的からも、優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	本事業は、日本武道館(補助事業者)にて行う武道普及・振興事業の実施経費の一部を補助するものであり、補助事業者にも負担を求めている。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	補助事業費の額の確定時に効率的な経費執行となっているか確認を行っている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	交付申請及び額の確定手続きの際、厳正にチェックを行っており、必要なものに限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大会等の行事の中止を余儀なくされたため、不用率が大きくなっている。
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	補助事業者から提出のあった交付申請書及び事業完了報告書に基づき、交付決定時及び事業費の額の確定時のそれぞれにおいて、補助対象経費の妥当性・必要性について確認を行っている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	△	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、武道館が主催する各種行事の中止を余儀なくされたため、実績が低調となった。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	△	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大会等の中止を余儀なくされたため、実績が低調となった。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	事業番号	事業名	
点検・改善結果	点検結果	本事業の実施に当たっては、日本武道館から提出のあった交付申請書の内容を、同補助金交付要綱に照らし、補助対象経費等が適切に計上されているか、その用途が事業目的に沿ったものになっているか等を根拠書類に基づき確認を行ったうえ、交付決定を行っている。また、事業終了後には、事業報告書及び支出経費証書類に基づき、事業が計画通り実施されたか、補助対象外の経費は含まれていないか等の確認を行い、同補助事業の額の確定検査を行うことで、適切な事業の点検を行っている。	
	改善の方向性	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、補助事業の規模縮小を余儀なくされたが、令和4年度については、感染防止策を実施することで大会や研修が開催できるよう、実施期間や開催場所、実施方法等の工夫を促し、コロナ下においても事業実施となるよう改善を行っていく。また、補助事業に要する経費の妥当性についても、引き続き、交付決定時及び額の確定時において、関連書類等との実合等により、適切に確認を行う。	

外部有識者の所見

外部有識者による点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

の事業
改善
部内
改容

この事業は、令和3年度決算において多額の不用額が生じていることから、不用額が生じたより詳細な要因を分析したうえで、予算執行の適切な改善に努めるべきである。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

執行
改善
改

令和2年度及び3年度は、コロナウイルス感染症の影響を受け、一部事業の中止等があったが、所見を踏まえ、適切に事業予算が執行されるよう、定期的な打ち合わせや進捗確認など、計画的な予算執行の管理に努める。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度	363			
平成24年度	391			
平成25年度	354			
平成26年度	341			
平成27年度	339			
平成28年度	319			
平成29年度	310			
平成30年度	306			
令和元年度	文部科学省 - 0300			
令和2年度	文部科学省 0291			
令和3年度	2021 文科 20 0319			

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

スポーツ庁
35.7百万円

公益財団法人日本武道館の実
施する各種事業に必要な経費
の一部を補助金として交付する。



【補助】

A. (公財)日本武道館
35.7百万円

青少年武道錬成大会、武道指導者講習会
事業、古武道保存事業及び国際交流事業を
実施。

資金の流れ
(資金の受け取
り先が何を行っ
ているかについ
て補足する)
(単位:百万円)

費目・用途
(「資金の流れ」に
おいてブロックご
とに最大の金額
が支出されている
者について記載
する。費目と用途
の双方で実情が
分かるように記
載)

A.(公財)日本武道館			B.		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
旅費	講師旅費等	12.5			
諸謝金	講師謝金等	9			
雑役務費	大会会場設営、動画資料作成等	8.9			
印刷製本費	配布資料等	3.4			
会議費	会場備品レンタル等	1.4			
通信運搬費	通知物、大会物品移送等	0.5			
計		35.7	計		0

